

津波から

命を守ろう！

一ひなんくん練を

通してー



宇和島市立遊子小学校

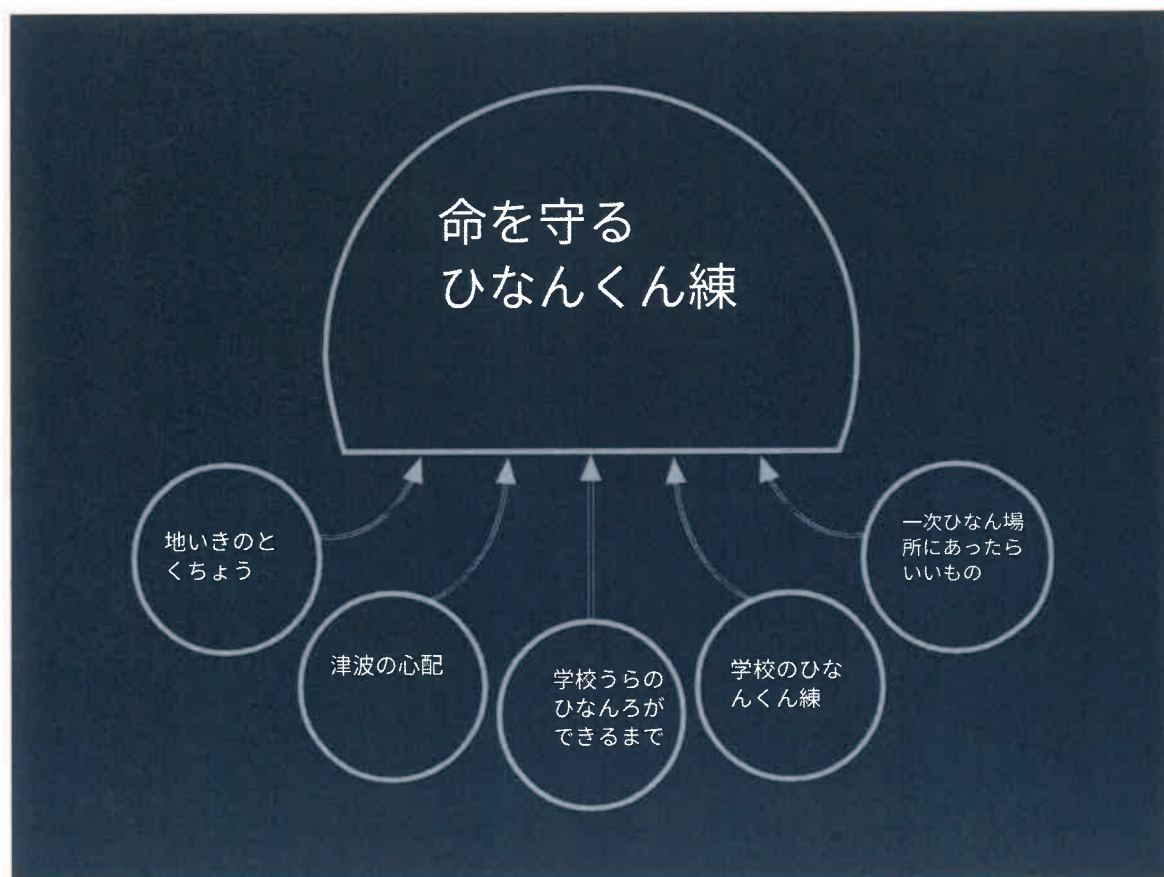
4年

山下 蓮弥

課題設定の理由

ぼくは、学校のひなんくん練にいつも真剣に取り組んでいます。それは、自分の命を守るために役に立つからです。津波のくん練では、学校うらのひなんろを使ってにげます。このひなんろは、地いきの人と先生たちが作ってくれました。このことをぼくのお姉ちゃんたちが6年生のときに本にまとめました。ぼくは、これを読んでいろいろ知ることができました。これをもっとたくさんの人に知ってもらいたいです。そして、一次ひなん場所にあったらいいものも考えたので、みんなにしょうかいしたいと思いました。

課題解決に向けた計画



目次

遊子小学校での学びをみんなに発信して、

自分の命、みんなの命を守る

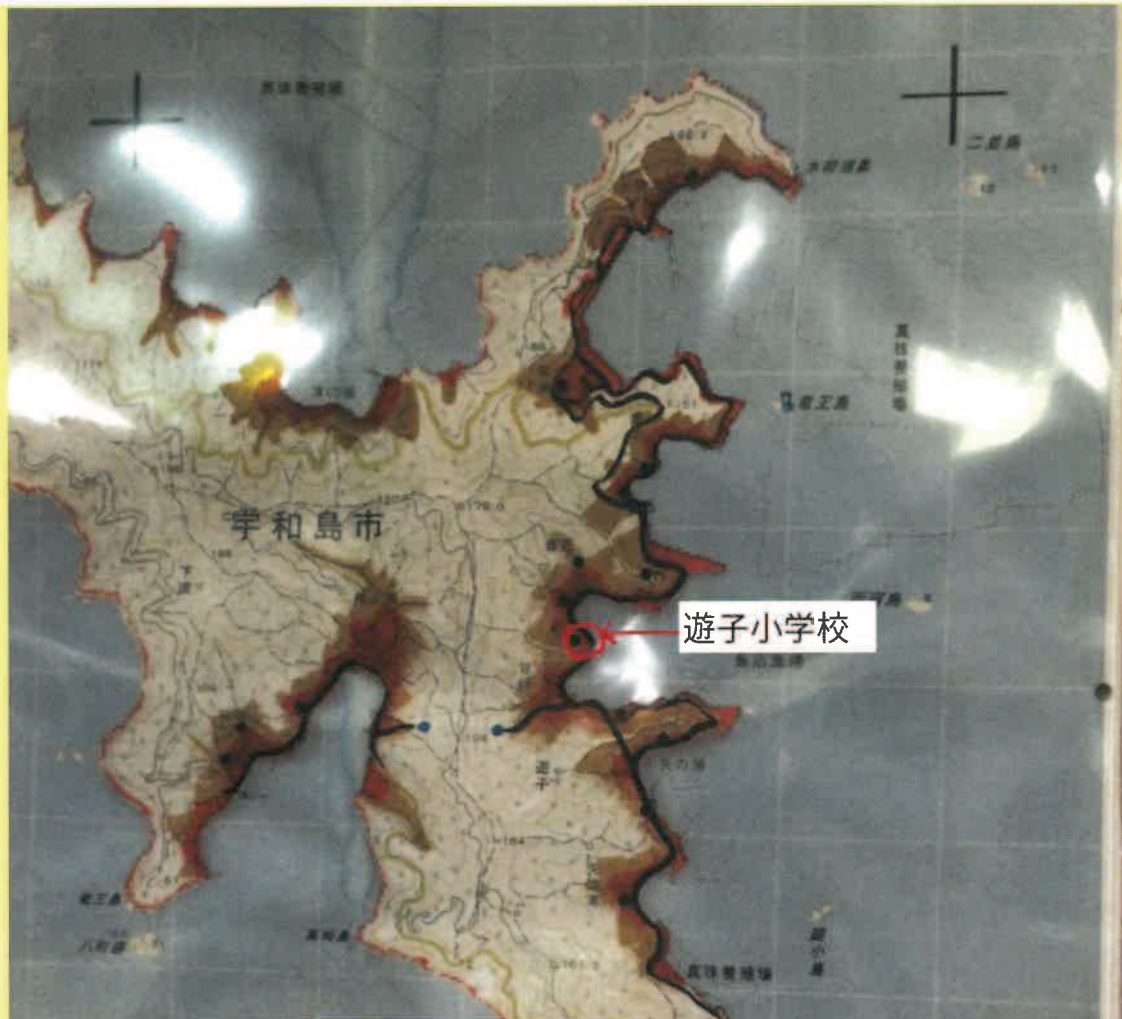
アイテム（体験したこと・勉強したこと）を

紹介します！！

- 1 知らせたい・伝えたいアイテム①
○ 地いきのとくちょう
- 2 知らせたい・伝えたいアイテム②
○ 学校のひなんくん練
- 3 知らせたい・伝えたいアイテム③
○ 学校うらのひなんろができるまで
- 4 知らせたい・伝えたいアイテム④
○ 一次ひなん場所に
あったらいいもの
- 5 まとめ

1 知らせたいアイテム①

○ 地いきのとくちょう



津波・土しゃさいがいの
はんいを重ね合わせた地図



ぼくたちのすむ遊子地いきについて

- 遊子小学校の目の前は、宇和海が広がっています。
- 家の目の前も海で、家の近くはすぐに山になっています。
- リアス式海がんで、道はくねくねしています。
- 宇和島市役所からは、30分くらいかかります。
- 大きなじしんがあったら、宇和島市には、29分で13mの津波がくると言われています。遊子には、30分で3～4mていどの津波がくると言われています。



2 知らせたいアイテム②

○ 学校のひなんくん練



年に5回以上のひなんくん練をしています。



ひなんくん練の後、班に分かれて、もしものときの行動やそなえについて話し合いました。ぼくは、自分の命は自分で守れるように行動したいと思いました。



- ・2・3階へ ひなん (自宅)
- ・早目に ひなん
- ・食りょうそなえる (ひなん袋)
- ・ひなん場所確認 (安全な場所)
- ・お・か・し・もち (にげる)
- ・天気予報
- ・落ち着いて判断 → ひなん
- ・家族で話し合っておく (ひなん場所、持ち出すもの)

1ヵ所だけではX.

・学校・家・外出先・旅行先

ひなんのイはろのボルト
 ○はやく ひなん
 ○ひなん場所を確認
 高いところ
 ○ハザードマップ
 安全な場所が分かる。
 ○命を守る
 ・防災バッグ (水や食料、お薬など)
 ・ヘルメット
 ○高学年が低学年のおたすけ (共助)

- ① できるだけくずれていない所を見つけてにげる。
 - ② ひなん袋を1階と2階でそれぞれに用意する。
 - ③ 高い所 → 直角 (くずれぬ方) にひなん。
 - ④ 日ごろから家族で話し合っておく。
 - ⑤ 使わないまとはしっかり戸じまりしておく。(台風の際は雨戸やシャッターをかける)
- ・家族に話し合っている場所へ行く
 ・家族でぼうさい マップ作り

- 高いところへ! うしろをむいていく。
- ・垂直ひなん, 直角 ひなん
 - ・あまり後ろを見ない。(前を見ろ!)
 - ・すばやく (早歩き) 頭や腕、肘、膝、足
 - ・落ちてくるものに気をつける (足もとを見ろ)
 - ・先生の指示を聞く (スル) 食料や水の準備
 - ・声をかけ合う
 - ・あわてず 冷静期限のなかで
 - ・もどらない
 - ・前もって準備をする (話し合い) ひなんの準備 (防災バッグ、避難)
 - ・上着やふとん、マスク、靴下、お水、お菓子
 - ・家族会議



3 知らせたいアイテム③

○ 学校うらのひなんろができるまで

令和5年に学校うらのひなんろが完成しました。みんなは、そのひなんろが、どんなふうに使われたか知りませんでした。どうしてかという、コロナのために学校に来られなかったり、学校のうらで作られているのを見たりできなかったからです。そこで、ぼくのお姉ちゃんたち（令和5年度6年生）がひなんろ完成までのことを調べて、本にまとめました。今も、この本は、防災学習のときに活用して、ひなんろがどうやってできたか、勉強しています。

私たちの 新たな避難路



宇和島市立遊子小学校

令和5年度 6年生

令和5年度6年生がまとめた本のページをしょうかいします。

1 学校裏の避難路ができるまで

- ① 2020年2月。コロナで学校が休校になり、当時の校長上田圭城先生が裏山開拓に取り掛かりました。一人、また、一人と作業に加わり、だんだんと輪が広がり、避難路づくりが本格的にスタートしました。



- ② 始まってからは、ほぼ、毎日、誰かが作業をしているという状態でしたが、多くの方が集まっての大作業をすることがありました。これは、2回目の大作業の様子です。



はじめは、こんな様子だったことが分かって、びっくりしました。
今とはぜんぜん、ちがいます。

③ 2020年 3月 12日。木を固定するための杭打ちの作業をすることになりました。公民館、自治会長さん、先生たち、そして、有志の方々と作業を行っていただきました。この後も、作業できる人たちが集まっては、少しずつ、今の形に近付いていきました。



学校の裏山 避難経路開拓記念 令和2年3月12日(木)

授業で、ぼくたち、遊子小学校の子どもたちのことを思ってもらったと先生から聞きました。こんなにたくさんの人たちがぼくたちのことを考えてくれて、学校うらのひなんろができたんだなあ、とありがたく思いました。

④ 3月18日頃から、山下造園の山下忠文さんの協力を得て、大きな木の切り出し作業が始まります。大きな木が、山下さんの手によって どんどん伐採されていき、すっきりとしました。



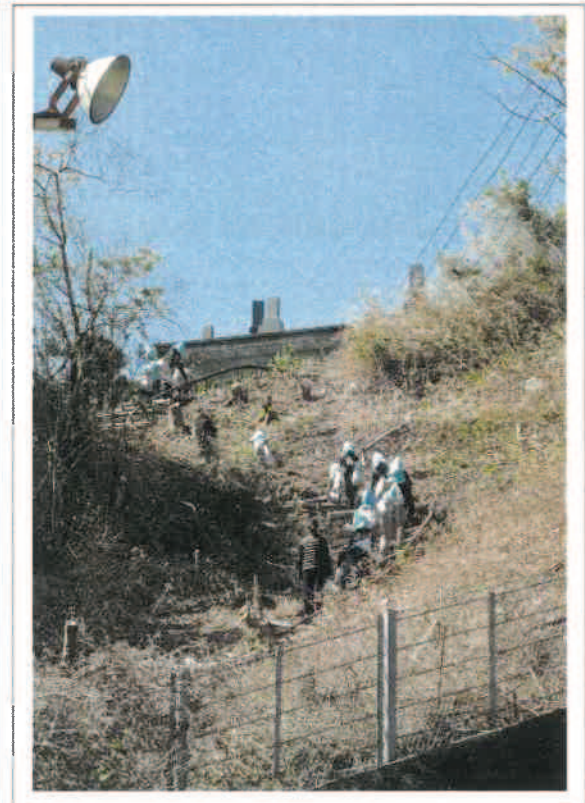
今も、この大きな切りかぶは、ひなんろの両はしに残っています。

- ⑤ 3月下旬に、桜の木の苗を植えることになり、避難路の横の草刈りと並行して、桜の苗を植えました。PTA役員さんと自治会長さん、そして、公民館、先生たちで作業を行いました。



ざんねんながら、この桜の木のなえは、しかに食べられてしまったそうです。

- ⑥ 学校が休校している間に出来上がった避難路を活用して、学校が再開されてから行われた避難訓練の様子です。このときは、まだ、足元が不安定でした。



ぼくは知りませんが、今のひなんろができるまでは、こんなところをのぼっていたんだと知っておどろきました。

⑦ 2020年6月7日。山下さんに伐採していただいた大きな木を細かく切る作業を行いました。2020年10月には、避難路のサイドに黒いネットをはりました。



黒いシートは、ようしょくの魚の日やけ防止に使われるネットで、草が生えるのを防ぐためにしたそうです。

⑧ 2020年末から 2021 年初めに松本組さんにより、コンクリートを流し込み、階段を作ってくださいました。このときは、今の 8 分の 1 ほどが完成しました。子どもたちが安心して避難できるようにと手すりもつけていただきました。



今のひなんろに近くなりました。こんなふうにしてかいだんができたと知って、またまた、びっくりしました。

⑨ その後、2022年3月に玉見荘のところまでコンクリートの階段と手すりがつきました。その後も糸巻寺・改善が行われ、現在の避難足路が完成しました。



こんなふうに、学校うらのひなんろができたんだと分かったので、ひなんくん練でのぼるときなど、地域の人たちに感しゃしてのぼろうと思います。

今も、年に2回、地いきやP T Aの皆さんがひなんろをせいそうしてもらっています。ありがとうございます！



4 知らせたいアイテム④

○ 一次ひなん場所にあったらいいな

令和6年3月11日に、防災デイキャンプをしました。そこで、学校うらのひなんろにのぼって、そこにどんなものがあったらいいかを、みんなで考えました。



ひなんろをのぼったところの広がっている所で、かんいテントを広げて、中に何人入れるか調べたり、すわったり、ねたりしながら、どんなものがあったらいいかを考えました。

一次ひなん場所においておきたいもの

いろいろおいておけばいいものはあるけれど、場所があまり広くないし、まず、おけるようなそうこがない(T_T)



そこで、ぼくがおいておきたいもの

として考えたのは、テントなどを入れる、小さいそうこがあったらいいなと思いました。そのそうこの中には、テント以外にも、学校でじゅんびしている非常用持ち出しぶくろなども入れておけば、下から持って上がらなくてもいいと思います。そして、もし、たくさんの人がひなんしてテントがはれなかったときのことを考えて、テントみたいに大きくはないけれど、一人一人が日よけや風よけができるようなシートのようなものがあればいいなと思いました。さいがいがおこる前に、いろいろなじゅんびができていれば、安心だなあと思うので、みんな考えてじゅんびできたらいいと思います。

6 まとめ

お姉ちゃんたちが作ってくれた「わたしたちの新たな避難路」の本のおかげで、ぼくは、学校うらのひなんろができるまでのことを知ることができました。これは、地いきや先生たちが、ぼくたちの命を守るために作ってくれたものです。ぼくは、これからも、そんな地いきや先生たちの気持ちを大切にしていって、真剣にひなんくん練をしながら、自分の命を守るために、どう行動すればいいかを考えていきたいと思います。ぼくの家では、親がいないときにさいがいが起きたら、山がわにあるおはか(ひなんばしょ)ににげるようにしています。さいがいは、いつ来るかわかりません。どんなときでも、自分の命を守ることをできるように、これからも、ぼうさいの勉強をつづけていきながら、これからは、ぼくも、地いきのみなさんが安全にひなんできるようにするためには、どうすればいいか。そして、どんなそなえがひつようなかということなどを、もっと勉強して、みなさんに伝えていけたらいいなと思っています。

